

登録コード	HM103300	開講年度	2026			
授業題目	腫瘍病理学特論				担当教員	奥山 隆平 他
英文授業名	Tumor Pathology				副担当	大谷 真紀・立石 文子
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	博士課程1年次
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	(授業の達成目標)
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				⇔	腫瘍病理学における深い知識・卓越した技能
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力				⇔	腫瘍病理学研究において、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力
(2)詳細/Detailed information	腫瘍性病変は外科病理診断の領域でその業務の主体を占めるとともに、その発生に関わる要因の解析と生物学的な側面は病理学研究の大きな課題である。 本授業では、腫瘍発生の要因についての理解を深めるとともに、腫瘍の病理診断能力の基本を身につけることを目指す。					
(3)授業の概要/Overview of course	慢性炎症を背景に発症する腫瘍やウイルス発がんを事例に、腫瘍発生機序について解説するとともに、造血系腫瘍や上皮性腫瘍を中心として、免疫組織化学や分子病理学的手法も含めた病理診断の実際を教授する。					
(4)授業計画/Course plan	1. 腫瘍病理学総論（2回） 2. 慢性炎症を背景とした腫瘍発生（1回） 3. ウイルス発がん（2回） 4. 造血系腫瘍の診断の実際（4回） 5. 上皮性腫瘍概論（1回） 6. 粘液産生性腫瘍（2回） 7. 腫瘍病理診断での免疫組織化学（3回）					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	授業終了後、小テストを実施することにより、その時間に扱った内容についての理解度を調べる。授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」，応用問題が解ければ「やや上にある（良）」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」，例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	本講義はトピック的な話題を集めたものではなく、病理学の実践に必要な内容を系統的に積み上げていく形式の授業である。学会参加など致し方ない場合を除いて、授業には欠席することなく出来る限り出席すること。 毎回、講義資料を配付する。事前学習は特に必要としない。授業中での理解を心がけ、事後学習で理解状況を必ず確認すること。次回の授業の冒頭で、前回の授業内容についての質問を受け付ける。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	毎週火曜日16:00-17:00をオフィスアワーとする。医学部基礎研究棟2階病理組織学教室にて。事前にアポイントをとることが望ましい。電話0263-37-2607、内線5191、メールアドレスmendo@shinshu-u.ac.jp					
(8)授業の形式/Course format	PowerPointを用いた講義を主体とする。					